

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

| | |
|---------------|------------------------------------|
| 事業所番号 | 2470201290 |
| 法人名 | 有限会社 コーブンシャ |
| 事業所名 | グループホーム ほのぼの平尾の家 |
| 所在地 (電話番号) | 四日市市平尾町78番地12 (電話) 059-325-3771 |
| 評価機関名 | 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 平成 19 年 12 月 14 日(金) |

【情報提供票より】 (H19年11月27日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------------|---------------------|-------|
| 開設年月日 | 平成 14 年 10 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 11 人 | 常勤 5人, 非常勤 6人, 常勤換算 | 6.45人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-------------|-------|-------|
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート 造り | | |
| | 2 階建ての | 1 階 ~ | 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|-------------------------------|----------------|-----------------|---|
| 家賃(平均月額) | 8畳50,000円 6畳45,000円 2人45,000円 | その他の経費(月額) | 80,000~85,000 円 | |
| 敷金 | 有(円) (無) | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | (有) 100,000 円 無 | 有りの場合 償却の有無 | (有) / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 1,400円 | | | |

(4) 利用者の概要(11 月 27 日現在)

| | | | | | | |
|-------|-----|--------|-----|------|-----|------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 2 名 | 女性 | 7 名 | |
| 要介護1 | 2 名 | 要介護2 | 3 名 | | | |
| 要介護3 | 4 名 | 要介護4 | 名 | | | |
| 要介護5 | 名 | 要支援2 | 名 | | | |
| 年齢 | 平均 | 86.8 歳 | 最低 | 78 歳 | 最高 | 96 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------------------------|
| 協力医療機関名 | 医療法人くぬぎの木あこずクリニック 大歯科クリニック |
|---------|----------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺は農家住宅が点在し道路を挟んで公園、防風林、田畑に囲まれているなど長閑な環境である。当事業所は鉄筋コンクリート造り2階建ての一般住宅を改造したものであるが玄関を始め階段、廊下など共同スペースは全てバリアフリー化され安心して生活の出来る工夫がされている。改造に限界のある階段や廊下の幅などから車椅子、歩行器などの使用には難を感じるが、利用者はそれぞれ手すりを上手く利用し逆にリハビリ効果を感じている。居室には畳部屋、床の間利用者もあり、室内装飾、家具、調度品も家庭的である。また恵まれた敷地での家庭菜園、庭の草取り、草花の手入れなど、職員は出来るだけ利用者の残存能力の維持に心がけ必要時には温かく手を差し伸べる等きめ細かい介助支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回評価の改善課題、「食事は職員も同じものを利用者と一緒には同じものではない(弁当)が利用者と一緒には会話を交え楽しく行っていた。「玄関の施錠」については改善には至っていない。(一度センサーを設置してみたが不都合が多く現在は使用していない)自由に外に出られなことは不安や閉塞感、ストレスの基になる。安全確保は言うまでもないが引続き日中鍵をかけなくても済むための工夫が望まれる。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 管理者、職員は調査の意義、目的をよく理解している。今回の自己評価についても全職員で検討しながらサービスの質の向上に繋げようとしている。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 今年10月が事業所の開設5周年にあたり記念行事の準備に追われ、まだ運営推進会議は行っていない。現在メンバー構成等準備中である。早急に開催されることが望まれる。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 家族の訪問頻度が多く何でも話し合える関係が出来ている。職員は会話の中で利用者の状況報告、意見の吸い上げに心掛けている。玄関にご意見箱の設置があるが今までに苦情等の投函はない。提案があれば職員全員で即検討している。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 運営者は地域との関係づくりの重要性を認識して自治会にも加入している。実習生、地域ボランティア、各種サークルの受入れや、地域公会所での催し(毎月ある)へ出かけるなど地域住民との交流に努めている。 |

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 開設当初からの理念「ゆっくり・いっしょに・たのしく暮らせる支援」に今般の制度改正に伴い「地域とのつながりを大切に明るいグループホームを目指す」を加え見やすい所に掲げている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念、地域密着型サービスとしての支援のあり方も職員によく浸透し実践されている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 運営者は、地域との交流の重要性を認識しており、自治会に加入し地域行事にも参加している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 職員は評価の意義をよく理解している。今回の自己評価も職員全員で話し合い検討し作成した。外部評価の改善点に付いても日々の業務の中で検討し出来るものから取り組んでいる。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今年10月が開設5周年にあたり記念行事の準備等に時間と労力を費やし、運営推進会議の開催には至っていない。 | ○ | 既に市の職員、利用者の家族、地域の代表者などメンバー構成も完了し承諾も得ている。早急に開催されることが望まれる。そして地域との交流を深めメンバーからの率直な意見を貰いサービスの質の向上に繋げてほしい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|--|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 施設長を窓口として市の担当職員からの利用状況の紹介、相談など行なっている。また毎月介護相談員の訪問を受け情報入手、相談もしている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 通常は家族の訪問時に状況を報告している。緊急時等必要時は電話によることもある。毎月ホーム便りを発行、配布している。また金銭管理についても厳格に管理し出納簿のコピーを送付している。 | ○ | 家族アンケートでは何れも事業所及び職員に感謝の気持ちが現れている。ただその中にも一部要望事項(職員の異動に伴う連絡と引継ぎ、事業所の催し予定の早期の連絡)がみられた。いまひとつ細部について工夫が望まれる。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 職員は家族の面会時に意見等を聞きだすように努めている。また玄関横にご意見箱を設置しているが今までに投函はない。個々の要望については記録しミーティング時に全員で検討している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 運営者は職員の異動が利用者への影響が大きい事をよく認識しており、極力離職を少なく、異動も最小限に抑えるように努めている。 | ○ | 新旧職員間で利用者情報の引継ぎの徹底は勿論のこと、家族にも出来るだけ事前に(毎月のお便りを利用する等)知らせておくことが望まれる。 |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 運営者は職員の質の確保・育成の重要性を充分認識し、段階的な県社協及び市主催の研修に参加させている。また資格取得のため勉強中の職員には勤務体制での配慮もしている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 県グループホーム協会、市のグループホーム交流会にも交替で参加して情報交換をしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 管理者は本人および家族とよく状況を話し合い見学をして貰うなど納得の上入居してもらっている。馴染めるまでは職員全員で細心の気配りをしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 生活の主体はあくまでも本人である事を職員は常に認識している。利用者一人ひとりの人格を尊重しながら本人のできる事、やりたい事をさりげなく支援している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員は、入居時のアセスメント及び利用者との日常会話、しぐさの中で希望や意向の把握につとめている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族に意見、要望をたずね、ケース会議にてスタッフで検討しながら一人ひとりの計画を作成している。作成後の介護計画を家族へよく説明し了解を得ている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 原則3ヶ月毎に見直している。職員は常に利用者の状況変化に気配りをしながら必要があればその都度変更している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 外食(すし、とろろご飯)喫茶等、季節毎のお花見、足湯、映画・芝居観賞、ドライブなど利用者の時々々の要望に職員は出来るだけこまめに対応している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 現在本人及び家族の希望で主治医の往診を受けている利用者は3名である。また看護師(職員)が週1回利用者全員の健康チェックを行なっている。なお隔月に契約医師の来訪を得ており職員がそれぞれの利用者について相談や指導を受ける様になっている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 現在のところ終末期介助については、建物の構造と職員体制から無理があるため、入居契約時に本人及び家族と話し合い、重度化した場合には出来るだけ早期に家族や医師と相談の上適切な対応(他の介護施設、医療機関を紹介、家族による介護施設の確保)を約束している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 個人情報の取り扱いには全職員に周知し的確に扱われている。また職員の利用者への応対や言葉づかいも穏やかである。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事の準備、後片付け、洗濯物たたみは日常的に、また足湯、季節毎に花見、地域公会所での催しへの見学と参加、外食・喫茶など利用者の希望にそった支援をしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備、後片付けとも利用者(出来る者)と職員が一緒にしている。時には家庭菜園での野菜を添え季節を味わっている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 希望があれば毎日入れるようにしているが、結果的にはそれぞれ交替で一日おきの入浴習慣になっている。時々入浴拒否者があり、あの手この手と工夫しながら働いている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 趣味や経験を活かしその人の力を発揮して貰えるような支援をしている。(食事準備、後片付けや家庭菜園、庭の草取り、ゴミだし、草花の手入れ、カラオケなど) | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 散歩は日常的に、地域公会所での催し(毎月変わる)、買い物、花見、足湯、ドライブなど出来るだけ希望に応じた外出支援をしている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | お勝手口等は鍵を掛けていないが、玄関は目が届き難い位置にあり事故防止のため鍵を掛けている。 | ○ | 利用者の安全を確保する事は勿論である。ただ自由に外に出られない不満、閉じ込められていることへの不安感等ストレスが考えられる。職員は利用者の様子、行動を常に感知しながら鍵を掛けなくてもよいための工夫が望まれる。 |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 春には消防署の協力を得て消化器の使用法を始め利用者誘導訓練を実施、また秋には事業所独自(職員と利用者)で避難誘導訓練をした。今後も定期的実施する予定である。緊急連絡先の掲示及びセコムとの契約もしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者の状態に合わせて、摂取量、栄養バランス、水分補給ともに十分に配慮しながら支援をしている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 構造は鉄筋コンクリートであるが玄関はじめ室内は和風装備である。家具、調度品、装飾品(額等)も家庭的で、所々に季節の花を生けるなど落ち着いて居心地よく過ごせるように工夫されている。また日当たりの良い広縁にはソファが置かれ外庭を眺めながらゆったりと過ごせる場も確保している。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 洋式部屋、畳部屋、床の間利用者等があり、それぞれテレビ、テーブル、衣装ケースなど自分の使い慣れたものや趣味のものを持ち込み心地よく過ごせる工夫をしている。 | | |